

# 北海道における縄文世界遺産の拠点形成方針

令和6年12月  
環境生活部文化局縄文世界遺産推進室

## 1 経過

北海道では、これまで、ユネスコ世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」における道内の6構成資産及び1関連資産（以下「道内資産」という。）について、保全と活用の好循環の形成に向けた検討を進めてきました。

令和3年(2021年)3月には、「北海道における縄文世界遺産の活用のあり方」を取りまとめ、世界遺産登録による効果を北海道全体に波及させ、地域の賑わいの創出に繋げるための取組の方向性を整理しました。

また、令和5年(2023年)3月には、「北海道における縄文世界遺産の拠点機能のあり方」を策定し、本道における縄文遺跡群の保全と活用を図るために必要な拠点機能として、「保全」、「教育」、「普及」、「情報発信」、「誘客」、「交流」及び「研究」の7つの機能について整理しました。

その後、道と道内資産の所在する市町（以下「関係市町」という。）との間では、関係市町と道による一体的な取組の必要性など、拠点機能の発揮に向けた意見交換を重ねてきました。

今年度は、拠点の形成に向けて取りまとめた素案について、有識者で構成された懇談会で4回にわたり専門的見地から意見を伺い、それをもとに道の考え方として本方針を策定するものです。

## 2 基本的な考え方

拠点機能の発揮・強化にあたっては、道内資産が広域に分布しているという縄文遺跡群の特性を踏まえ、道の専門機関等関連施設や関係市町が設置・運営しているガイダンス施設等との適切な役割分担のもと、その特性や専門性を活かしていく必要があります。

また、それぞれの拠点機能の発揮を促すとともに、各施設等間の連携を図り、道内における縄文遺跡群の保全と活用に係る取組の方向性を示し、事業の取りまとめや調整などにより、施策全体を効果的・効率的に推進するため、総合調整機能を備えることが有効です。

このようなことから、全体を統括する拠点機能を、札幌圏（環境生活部文化局縄文世界遺産推進室）を中心に強化するとともに、広域に分布する道内資産を中心とした周遊の促進、地域活動等を支援する機能の発揮・強化に向けて、道央エリアと道南エリアを設定し、それぞれに拠点を形成することとします。

道としては、拠点の形成を通じ、縄文世界遺産の価値から導き出された「現代に伝えたい意義」を、より多くの方々に知っていただくことにより、道内資産の重要性について理解を広げていきます。

## 3 拠点形成の方向性と主な取組

### (1) 全体を統括する総合調整機能

道内資産全体を統括する拠点機能は、縄文世界遺産推進室を中心に強化し、道内資産全体の保全と活用の推進、全体のブランディング、マーケティング等を展開します。また、北海道博物館や道立埋蔵文化財センターといった道の専門機関をはじめ、関係市町や関係団体等との連携を進めます。

ア 道内資産全体を統括する拠点機能の強化

- ・ 拠点機能の発揮に係る取組を計画的に実施するため、関連事業の全体計画を策定し、推進を管理します。
- ・ 道内資産の保全と活用に係る取組を実効性のあるものとするため、世界遺産や縄文遺跡等に関する専門性を確保します。
- ・ 中長期を見通しながら効果的な事業展開を図るため、有識者等から助言を得られる体制づくりを検討します。
- ・ 縄文世界遺産全体の魅力向上を図る事業等を推進するため、縄文遺跡群世界遺産本部（事務局：青森県）を通じ、北東北3県と一層の連携を図ります。

イ 道内資産全体の保全と活用の推進、全体のブランディング、マーケティング等の展開

- ・ 道内資産の一体的な理解を広げるため、統一感のある情報発信等によるブランディングを展開します。
- ・ 道内資産に関心を持つ方々をさらに増やしていくため、外国からの来訪者、次世代を担う高校生など、対象者（ねらい）を意識した提供プログラムや情報発信等の企画・調整を行います。
- ・ 道内資産の価値の深化や新たな知見等、縄文世界遺産の魅力の更新を図るため、国内外の関連研究機関等との交流を進めるなどして、世界遺産の価値の普及・保全に関する研究成果を収集、発信します。

ウ 北海道博物館や道立埋蔵文化財センターといった道の専門機関、関係市町や関係団体等との連携強化

- ・ それぞれの拠点における機能の効果的・効率的な発揮を図るため、道の専門機関や関係市町、団体等による連携組織を運営します。
- ・ 地域への誘客や周遊を進める拠点機能を効果的に発揮させるため、観光、まちづくり、地域おこしなど関連分野との連携を図ります。
- ・ 道内資産への関心のきっかけづくりや、関連地域を訪問する魅力の向上を進めるため、食や芸術、異文化など、多様な地域資源との交流による相乗効果を図ります。
- ・ 道内に所在する多くの縄文遺跡の活用について関心を高めるため、市町村と連携した情報発信などを行います。

(2) 道内資産を中心とした地域支援機能

【道央エリア】

道内資産のうち、入江貝塚、高砂貝塚（洞爺湖町）、北黄金貝塚（伊達市）、キウス周堤墓群（千歳市）を道央エリアとし、縄文世界遺産推進室を中心に拠点機能

を強化して、関係市町と一体となった遺産の価値・魅力の発信、道央を出発点とした広域的な周遊の促進、大学等と連携した地域活動等支援、多様化する観光形態に対応した体験プログラムの構築を進めます。

ア 縄文世界遺産推進室を中心とした拠点機能の強化

- ・道央エリアにおいて効率的・効果的な事業展開を図るため、対応する体制整備を進めます。
- ・世界遺産としての縄文遺跡の価値、魅力を発信するため、北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）、北海道博物館、道立埋蔵文化センターといった道立施設を活用するほか、駅や空港等の交通拠点の活用を検討します。

イ 関係市町と一体となった遺産の価値・魅力の発信

- ・縄文世界遺産の現代的意義の効果的な普及を図るため、道内資産に加えて、周辺の自然環境や産業などの地域資源を組み合わせた情報発信を進めます。
- ・道内資産の魅力について効果的な発信を図るため、地域住民や地域の活動との連携を進めます。

ウ 誘客・周遊を促す道央の出発点として、道南エリアへの周遊の促進

- ・道央エリアの来訪者に対して道南エリアへの周遊を促進するため、道立施設を活用するほか、交通拠点等における情報発信機能の活用を検討します。
- ・道内資産への誘客を促進するため、国内外に向けた多様な観光誘致事業との連携を図ります。

エ 大学等高等教育機関と連携した道央エリアにおける地域活動等の支援

- ・道内資産等の保全と活用に関する専門人材のスキルアップを支援するため、大学等高等教育機関と連携した人材育成等を推進します。
- ・縄文世界遺産の普及や活用について地域における取組の定着や活発化を進めるため、世界文化遺産などの地域資源に関する、児童・生徒向け教育プログラムや成人向け普及プログラムなどについて情報を収集し、関係市町などと共有します。
- ・道南エリアにおける世界遺産教育実践例について、道央エリアでの普及を図るため、関係市町との情報共有を進めます。

オ 多様化する観光形態に対応した体験プログラムの構築

- ・ヘリテージツーリズムやアドベンチャートラベルなど多様な観光形態に対応するため、市町の受入体制づくりを推進します。
- ・地域における対応力を考慮し継続的に来訪者を受け入れるため、持続可能な観光プログラムの企画や、実施に向けた調整を進めます。

### 【道南エリア】

道内資産のうち、垣ノ島遺跡、大船遺跡（函館市）及び鷺ノ木遺跡（森町）（関連資産）を道南エリアとし、函館市に設置する拠点により拠点機能を強化して、関係市町と一体となった遺産の価値・魅力の発信、道南を出発点とした広域的な周遊の促進、道内資産と一体となった世界遺産教育による人材育成、多様化する観光形態に対応した体験プログラムの構築を進めます。

ア 道南エリアにおける新たな拠点の設置、拠点機能の強化

- ・ 拠点機能を効果的・効率的に発揮するため、新たな拠点の設置地域については、函館市南茅部地域を候補地とし、函館市及び関係団体などの協力のもと、拠点形成を進めます。
- ・ 必要十分な拠点とするため、展開を予定する事業に求められる機能の検討を進めます。
- ・ 効率的、効果的な拠点形成・運営体制とするため、拠点で展開を予定する事業の効果や継続性に鑑みながら、民間の能力の活用や複数の手法の比較などについて検討を進めます。

イ 関係市町と一体となった遺産の価値・魅力の発信

- ・ 縄文世界遺産の現代的意義の効果的な普及を図るため、道内資産に加えて、周辺の自然環境や産業などの地域資源を組み合わせた情報発信を進めます。
- ・ 道内資産の魅力について効果的な発信を図るため、地域住民や地域の活動との連携を進めます。

ウ 誘客・周遊を促す道南の出発点として、道央エリア等への周遊の促進

- ・ 道南エリアの来訪者に対して道央エリアへの周遊を促進するため、函館市に設置する拠点において効果的な情報発信を進めます。
- ・ 道内資産への誘客を促進するため、青函交流事業との連携を進めます。

エ 道内資産と一体となった世界遺産教育を通じた人材の育成

- ・ 保全・活用に関する地域活動において、中心的な役割を担う人材の育成を図るため、世界遺産としての価値をより深く理解できるよう、道内資産やその周辺の地域資源をフィールドとして活用する研修プログラムを構築します。
- ・ 道南エリアにおける世界遺産教育実践例について、道央エリアでの普及を図るため、関係市町との情報共有を進めます。

オ 多様化する観光形態に対応した体験プログラムの構築

- ・ ヘリテージツーリズムやアドベンチャートラベルなど多様な観光形態に対応するため、市町の受入体制づくりを推進します。
- ・ 地域における対応力を考慮し継続的に来訪者を受け入れるため、持続可能な観光プログラムの企画や、実施に向けた調整を進めます。

#### 4 今後の進め方

令和7年度以降は、本方針を踏まえ、全体を統括する総合調整機能並びに道央エリア及び道南エリアにおける地域支援機能の具体化に向けて検討を進めます。

道南エリアにおける新たな拠点に関しては、函館市及び関係団体などの協力のもと、拠点形成を進めます。

## (参考資料)

### 北海道における縄文世界遺産の拠点形成に関する懇談会について

#### 1 概要

令和6年6月に取りまとめた「北海道における縄文世界遺産の拠点形成方針（素案）」について、効果的かつ持続可能な拠点機能の発揮に向け、成案を取りまとめるべく、懇談会を設置

#### [懇談会の構成（敬称略 五十音順）]

氏名	所属・職名	分野
木野 哲也	ウタウ・カンパニー（株）代表	まちづくり
小林 英嗣	（一社）都市・地域共創研究所 代表理事	地域再生
田代 亜紀子	北海道大学大学院 メディア・コミュニケーション研究院 准教授	考古学
永原 聰子	DENE B（株）代表取締役	文化資源開発
西山 徳明	北海道大学観光学高等研究センター 教授	世界遺産
水口 猛	北海道エアポート（株） 営業開発本部観光開発部 担当部長	観光振興

#### [開催経過]

開催年月日	開催地	内容
令和6年(2024年) 7月30日	札幌市	・北海道における縄文世界遺産について（報告） ・これまでの経緯と拠点形成方針（素案）について
令和6年(2024年) 8月29日	函館市	・垣ノ島遺跡、大船遺跡の現地視察を実施 ・縄文世界遺産の拠点形成方針「総論」について ・道南エリアにおける取組の方向性について ・道南エリアの拠点施設で実施すべき事業について ・実施すべき事業で必要となる施設・運営手法等について
令和6年(2024年) 10月17日	札幌市	・北海道における縄文世界遺産の拠点形成方針（案） の策定について
令和6年(2024年) 11月6日	札幌市	・北海道における縄文世界遺産の拠点形成方針（案） の策定について

## 2 拠点における取組の具体化に当たって参考となる観点（懇談会意見より）

### （1）総論

- ・縄文世界遺産が現代に伝えたい意義は「人は自然に支えられている。日々の生活の中で、食料や生活素材を与えてくれる『自然に感謝する』という価値観を広める」ということ
- ・将来像であり、ディスティネーション・イメージであるマスタープランの作成と関係者間での共有が必要
- ・地域の自治体が抱えている課題や現実的な社会といかに結びつけながら、縄文の価値を次の世代へつなげていくものであるべき

### （2）教育・普及・研究

- ・世界遺産教育は各地で実施されており、ここでしかできない教育を考える必要がある
- ・北海道の縄文、世界史の中の縄文というイメージをつくるのが拠点の役割
- ・国内外の文化財関係機関と連携していく必要がある
- ・拠点に必要なものは、第1に博物館における学芸機能

### （3）情報発信・誘客

- ・どの内容をどの世代、どの世界、どのような層に伝えるかが重要
- ・多様な分野、領域、世代のプレイヤーの人たちに関心を持ってもらうことが重要
- ・ターゲットは日本人よりは外国人。その効果（外国人が縄文世界遺産に注目）が出たら、外国人がすごいと言うのはなぜ？と思って日本人が来る
- ・外国人とともに重要なターゲットは高校生ぐらいの「自分がどう生きていくか」を考えている人たち
- ・外国人へのアピールにはトラベルデザイナー等に、縄文世界遺産をまず認識してもらうことが非常に重要
- ・世界的に知的好奇心を満たす旅は需要が高く、縄文世界遺産もそれに合う
- ・縄文だけで、その地域に3日間過ごすことは難しいので、地元の生活文化に触れるような体験に縄文を結びつけたストーリーがとても重要
- ・道内資産の世界遺産のストーリーを、拠点としてぶれずにアピールしていく必要がある

### （4）地域支援・地域連携

- ・遺跡は地域の資源として存在するものであるから、拠点における活動は地域の方々と共に作っていく必要がある
- ・拠点形成には、地域や住民、私たちの未来づくりという創造的な視点が欠かせない
- ・地元の方々が観光客に来てもらって良かったと思えないとやる意味はない
- ・地域の資源を観光にして、地域にお金で返してあげればいい。地域で得た収入を域内循環させることも必要
- ・多分野の研究者や多種多様な分野の方々がこの地域を訪れる環境やプログラム造成、それを受け入れられる体制や拠点施設、機能が欲しい